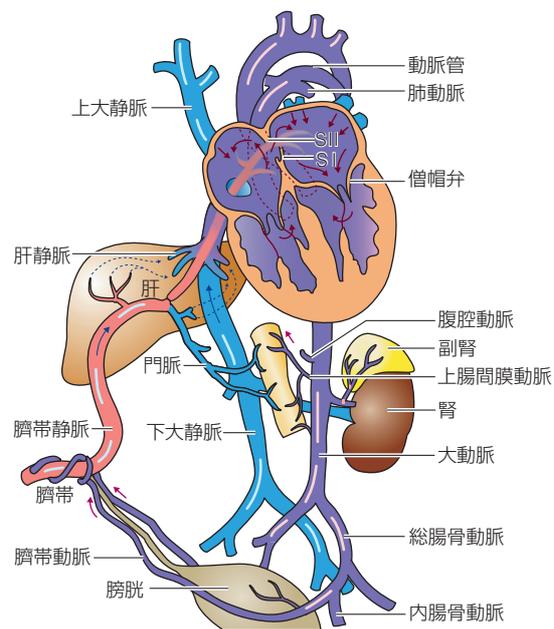


頁	段/図表	行ほか	誤	正
6	左	下から12-11行目	産婦人科学	産科学, 婦人科学
10	左	7-8行目	… エンテロウイルス, A型肝炎ウイルス(HAV) などである。	… エンテロウイルスなどである。
18	右	15-17行目	かつ, 細胞容積は 縮小し, 細胞は細胞膜に包まれたまま断片化して アポトーシス小体となる。	かつ, 細胞容積も 縮小する, 断片化した核と少量の細胞膜が細胞膜に包まれ アポトーシス小体となる。
31	左	見出しの記号	c, d, e	a, b, c
34	左	3行目	…細胞外液は 血管内液と間質液 に分けられる。	…細胞外液は 脈管内液と間質液 に分けられる。
35	右	下から7行目	(1)原因	(1)要因
44	表2	10行目	IX クリスマス因子(ATF-B)	IX クリスマス因子(AHF-B)
45	図14	脚注1行目	…aは活性型, phosph. は…	…aは活性型, bは安定型, phosph. は…
51	右	下から9-1行目	抗体(antibody)には, 大きく分けて液性抗体(humoral antibody)と細胞性抗体(cellular antibody)がある。液性抗体は免疫グロブリンと呼ばれる糖蛋白質である。細胞性抗体はある種のリンパ球やマクロファージ自身であり, それら血液細胞が自ら外敵を攻撃し, 死滅させる。この液性抗体が外敵の細胞を傷害するときには, 補体が関与する場合もある。通常, 抗体といえば液性抗体を意味することが多い(以降, 抗体という)。	抗体(antibody)は免疫グロブリンと呼ばれる糖蛋白質である。この抗体が外敵の細胞を傷害するときには, 補体が関与する場合もある。
52	図1	図説	A: ……重鎖と軽鎖の 紫色の 部分でFab部分を構成する。重鎖の対面している 青 の部分でFc鎖という。……共通である。ピンク色が抗原結合部位。青色はFc受容体との結合部位。 B: …… Fc部で 結合分子 といわれる蛋白質を介して… C: IgAの2量体, 粘膜上皮でつくられる分泌分子(SC) を介して, 2つのIgAが結合し, 粘膜表面 に出でくる。	A: ……重鎖と軽鎖が 重なる 部分でFab部分を構成する。重鎖 同士 が対面している部分をFc鎖という。……共通である。ピンク色が抗原結合部位。青色はFc受容体との結合部位。 B: …… Fc部で 結合鎖(J鎖) といわれる蛋白質を介して… C: IgAの2量体 結合鎖(J鎖) を介して2つのIgAが結合し, その後結合して粘膜上皮でつくられる分泌分子(SC)とともに粘膜表面 に出でくる SCとの結合は消化酵素によるIgA分解を阻止する。
52	右	下から9行目	(4) IgE— εε(κκ) または εε(λλ)	(4) IgE— εε(κκ) または εε(λλ)
52	右	下から7行目	… 連鎖 が長い。この長い 連鎖 の…	… 重鎖 が長い。この長い 重鎖 の…
53	右	8行目	キラーT細胞(killer T cell, Tk)	キラーT細胞(killer T cell)
53	右	9行目	レギュラトリーT細胞(regulatory T cell, Tr)	レギュラトリーT細胞(regulatory T cell)
54	図2	図中の矢印		(ヘルパーT細胞→B細胞, ヘルパーT細胞→キラーT細胞 の矢印を太い矢印に変更)
54	図2	図説	… 実線は活性化を…	… 太い 実線は活性化を…
54	左	下から5行目	細胞の由来については, T細胞系とも, マクロファージあるいは顆粒球系とも いわれている。	細胞の由来については, リンパ球系 といわれている。
55	図3	「日数」の軸の目盛	40～60日	27～37日
56	図4	図中の文字	肥満細胞	肥満細胞 定常状態
56	図4	図中の文字	脱顆粒現象	(左記を削除)
56	図4	右イラストの下	(右記を追加)	脱顆粒状態
56	左	下から2行目	肉芽組織	肉芽腫
56	右	見出し	V型(刺激型, 機能亢進型)	V型
59	右	下から1行目-	MHC遺伝子領域は 再構成(rearrangement) によって各個人に特有の 遺伝子配列 をとり, たとえ兄弟姉妹でもその組み合わせは 違う, 同じなのは, 一卵性双生児のみである。	MHC遺伝子領域は各個人に特有の 構造 をとり, たとえ兄弟姉妹でもその組み合わせは 通常異なる, 一卵性双生児は同じになる。
73	左	3-7行目	腫瘍(neoplasm またはtumor)とは, 生体に由来する細胞が過剰に増殖した状態であり, 肉眼的には腫瘍としてとらえられる。腫瘍は, その増殖様式から 良性腫瘍(benign tumor)と悪性腫瘍(malignant tumor) とに大別される。	腫瘍(neoplasm)とは, 生体に由来する細胞が過剰に増殖した状態であり, 肉眼的には通常は腫瘍(tumor)としてとらえられる。腫瘍は, その増殖様式から 良性腫瘍(benign neoplasia)と悪性腫瘍(malignant neoplasia) とに大別される。
76	左	下から7行目	肝臓細胞(hepatocellular carcinoma またはhepatoma)	肝臓細胞(hepatocellular carcinoma)
76	右	下から7-6行目	また, 消化管壁の平滑筋(固有筋層)も好発部位の1つである。	(左記を削除)
88	表4	「物理的因子」の「要因」	紫外線 放射線(コバルト, ラジウム) 放射線	放射線 放射線(コバルト, ラジウム) 紫外線
89	右	下から10-9行目	1塩基 変異 多型(single nucleotide polymorphism; SNP)	1塩基多型(single nucleotide polymorphism; SNP)
100	左	2行目	1 平均寿命 とは	1 平均寿命
100	左	3行目	老化は, 平均寿命が急激に伸びた現在では…	老化は, 平均寿命 (0歳の平均余命) が急激に伸びた現在では…
106	右	1行目	石灰化大動脈狭窄症(老人性大動脈狭窄症)	石灰化大動脈 弁 狭窄症(老人性大動脈 弁 狭窄症)
119	図1			(欄外を参照)
122	左	4行目	②大動脈の騎乗転移	②大動脈の騎乗 右方 転移/ 大動脈の騎乗
122	左	13行目	(7)大動脈 狭窄	(7)大動脈 縮窄(絞窄) coarctation of the aorta
134	右	11行目	毛細血管性リンパ管腫	毛細管性リンパ管腫
150	左	9行目	…, 粘膜固有層と 粘膜下層を合わせたもの である。	…, 粘膜固有層である。
153	左	下から5-4行目	唾液腺(salivary gland)は漿液腺と粘液腺からなり, 大きく分類して大唾液腺と小唾液腺がある。	唾液腺(salivary gland)は 組織的な漿液腺と粘液腺 からなる。大唾液腺と小唾液腺がある。
154	左	9行目	c 腫瘍性疾患	c 腫瘍および腫瘍性 疾患
161	左	下から7行目	…, 空腸 にできる。	…, 小腸の中間部分 にできる。
189	左	4行目	…, 前頭葉に 後 発し, …	…, 前頭葉に 好 発し, …
196	右	下から3行目	1,25-ヒドロキシコレカルシフェロール(1,25-DHCC)	1,25- ジ ヒドロキシコレカルシフェロール(1,25-DHCC)
209	右	下から1行目	下肢 筋位 の…	下肢 近位筋 の…
225	左	11行目	女性ホルモン反応して…	女性ホルモンに反応して…
231	左	10行目	卵巣刺激ホルモン	卵巣刺激ホルモン
231	右	下から12-11行目	出産・分娩時 におこることが多い。	分娩時におこることが多い。
235	左	下から3行目	(2)神経芽腫	(2)神経芽 細胞 腫
246	左	下から15-13行目	本症は, human T lymphotropic virus type I(HTLV-I) 型ウイルスゲノムをDNAに組み込んだ成熟T細胞が単クローン性に増殖した腫瘍であり。	本症は, human T lymphotropic virus type I(HTLV-I)の感染により引き起こされる白血病である。HTLV-IIはレトロウイルスとして知られているRNAウイルスであり, ウイルスが持つ逆転写酵素を利用して細胞のゲノムに組み込まれ, T細胞が単クローン性に増殖する。
271	問題10	選択肢1	高血圧には, 本態性…	高血圧は, 本態性…
274	問題17	選択肢4	…急性糸球体腎炎, 関節リウマチ などである。	…急性糸球体腎炎, 全身性エリテマトーデス などである。
276	問題20		(右記に訂正)	問題20 腫瘍転移について誤っているものはどれか。 1. 悪性腫瘍の転移経路には, リンパ行性, 血行性および播種性の3つの経路がある。 2. 肺, 肝臓, 骨への転移は血行性がほとんどである。 3. 胃癌細胞の鎖骨窩リンパ節への転移(Virchow転移)は, リンパ行性転移の代表的なもの1つである。 4. Krukenberg腫瘍は, 胃癌細胞が播種性に卵巣へ転移したものである。 5. Schnitzler転移は, 悪性腫瘍が膀胱・直腸窩にリンパ行性に転移したものである。 解答 5 解説 Schnitzler腫瘍は, 悪性腫瘍が播種性に膀胱・直腸窩に転移したものをいう。



▶ 図 1 胎児血液循環

赤：酸素濃度が高濃度，紫：中濃度，青：低濃度